

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立山内西小学校
1 前年度 評価結果の概要	①「主体的に学び続ける教師・児童の育成」について 教師間では個別最適な学び・協働的な学びの推進に向けて取り組み、ICT機器を積極的に活用しわかりやすい授業を行ったことで、学習内容がよりわかると答えた児童が96％であった。また、「授業づくりのステップ1,2,3」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は73％で目標に達せなかった。次年度は、引き続き基礎基本の学習内容の定着と思考力・判断力・表現力がさらに向上するように自己調整する力や粘り強く学ぶ態度を育んでいきたい。 ②「心の教育」について 挨拶、返事、言葉遣いに関して、87％の児童が肯定的に取り組むことができていた。人権集会や異学年交流、道徳の時間を通して、自分も相手も大切にすることを育む教育活動を行った結果、98％の児童が肯定的に捉えることができていた。今後も、困っていることや辛い思いなど自分の気持ちが届えられるように教育相談体制を整え、支援体制を構築させていき、児童の良さを伸ばし、一人一人を認め、励ましたり、自己肯定感を高める教育活動の推進を行っていく。 ③「健康・体づくり」について 「健康に食事は大切である」と回答する児童は、98％、「朝食をとって登校する」児童は、96％であり、望ましい食生活は向上した。家庭での基本的な生活習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは94％の保護者が肯定的な回答をしている。食習慣の意識は高く、食事の大切さは認識できていた。今後も食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。
2 学校教育目標	やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子

3 本年度の重点目標	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教職員の授業力向上 ②人権教育の充実と特別支援教育のさらなる充実 ③基本的な生活習慣の定着と児童の健康・体力づくりの向上
------------	--

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業づくりのステップ123」の全項目において、ステップ3を目指し授業づくりを行い、「書く活動」と「話し合い活動」はステップ3を達成した教職員が80％以上にする。 ○ICT（一人一台端末等）を活用して授業を行うことで、学習内容がよりわかると答えた児童が90％にする。	・「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・各学級や個人の実態に応じて、授業を工夫する。 ・（指導の個別化、学習の個性化） ・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、授業実践等を共有する。（校内研究、スキルアップ座談会）	-		-		-		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童を（自己評価）85％以上にする。 ○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85％以上にする。 ○「やまうち含言葉」の「優しい言葉」を周りの人へ」を意識して行動できる児童（自己評価で）を90％以上にする。	・「生命活動や運動会、あいさつ運動等で異学年交流の機会を設け、思いやりのある関わり方を意識させる。 ・人権・平和教育、男女平等教育は全教職員に位置付け、教育活動の中で周りの人とのつながりを感じさせるなどにより、一人ひとりの存在を認め合うことができるようにする。 ・「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。	-		-		-		
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85％以上。	・毎日の帰りの会で、いいことをした人や頑張った人を紹介する場を設け、児童の発表に対し、肯定的なコメントをしたり、教師から紹介をしたりする。 ・行事ごとに、キャリアパスポートを活用し、目標を達成できたところや頑張ったことについて振り返ることで、次の目標や将来への意欲につなげる。	-		-		-		
	○行事や他教科との関連を意識した道徳科の授業実践	○職員アンケートで「行事や他教科等との関連を意識した授業を実施できた」と思う教職員を90％以上にする。	・道徳推進リーダーが、授業を公開したり資料を配布したりして、先生方へ積極的に授業提案をしていく。	-		-		-		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○「安全に関する資質・能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童100％を目指す。 ○朝食をとって登校する児童90％以上を目指す。 ○登下校や休み時間を含め、運動やスポーツなどで体を動かす時間が1週間で280分（1日40分程度）以上の児童70％以上	・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもたせ、食事の大切さに気付かせる。 ・各学級で食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。 ・登下校は原則歩いてすることを推奨する。 ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行う。運動委員会の児童に全校遊びを計画させ、実行する。	-		-		-		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤ボードを活用し、職員自ら定時で退勤する日を設定させ、ライフワークバランスの取れる働き方を推奨する。 ・長期休業前に、これまでの年次休暇取得日数を知らせ、年間取得14日以上を取得させる。	-		-		-		
	○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90％以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。動画の配信等、通信の手段を工夫する。	-		-		-		
●特別支援教育の充実	○教員の児童理解と支援力の向上	○職員アンケートで特別支援教育に関する児童理解と支援策を意識して指導する教職員80％以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。	-		-		-		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○情報モラル教育の充実	○情報やセキュリティに関する知識の保持、ルールやマナーを守るための授業の実践	○職員アンケートで児童がイメージしやすいような情報モラル教育における「再現性」「具体性」のある指導ができた教職員80％以上にする。	・情報教育推進リーダーが、定期的に情報教育に関する資料を回収したり、長期休暇に職員に向けて研修を行ったりする。	-		-		-		
○教育相談体制の充実	○児童が安心して教育を受けられる相談体制の充実	○心のアンケートや教育相談の実施により児童に寄り添う支援ができた教職員90％以上を目指す。	・教育相談期間を定期的に設定したり、心のアンケートに取り組んだりすることによって、児童一人一人の状況を把握し、温かい声かけや支援を行っている。	-		-		-		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ●・・・高と胸りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------